

風水害に備える

近年、梅雨前線の停滞や、線状降水帯などを原因とする(集中豪雨)、積乱雲が発達して短時間に激しい雨を降らせる「局地的豪雨(ゲリラ豪雨)」などの自然災害が増えています。大木町でも山ノ井川の越水や内水氾濫による床上・床下浸水、道路冠水や農地の浸水による被害が発生しています。

国内でも異常気象による集中豪雨などで、逃げ遅れや避難中に巻き込まれるなど貴重な命が奪われています。

正しい知識を身に付け、早めの避難を心がけましょう。

大雨の時は早めの避難を(浸水後の避難は非常に危険です)

危険が迫る前に早めの避難が必要です。避難場所への移動(立ち退き避難)だけでなく、近隣ビルの高層階や自宅の2階といった高い場所への移動(垂直避難)も考えましょう。既に浸水しているなど、避難場所への移動が危険な場合は、垂直避難を行い救助を待ちましょう。

立ち退き避難

浸水前に避難する際は
早めの避難を!



垂直避難

浸水後も安全に自宅滞在が可能なら
家屋や家財の被害軽減を!



危険な避難

浸水の中の避難は
非常に危険です!



やむなく浸水の中を歩かなければならないときの注意

- 歩ける深さの目安は膝下までです。流れが速い場合は非常に危険です。
- マンホール等のふたが開いている場合があります。
- 長靴や裸足は危険です。運動靴をはきましょう。
- はぐれないようお互いの身体をロープで結んで避難しましょう。
- 長い棒を杖替わりにして、水の中の障害物に注意しましょう。
- 切れた電線など、危険な場所には近寄らないようにしましょう。

雨の強さと降り方(1時間雨量) ※ゲリラ豪雨等により20mm~30mmの雨でも市街地では冠水する場合があります。

10~20mm
やや強い雨



地面一面に水たまりができて、話声が聞き取りにくくなります。長雨になりそうなら警戒が必要です。

20~30mm
強い雨



土砂降りの雨。傘をさしても濡れてしまうほどの雨です。小河川の氾濫や、崖崩れの心配もあります。

30~50mm
激しい雨



バケツをひっくり返したような激しい雨。山崩れ、崖崩れが起こりやすくなります。道路規制も行われます。避難の準備を。

50~80mm
非常に激しい雨



滝のように降り、あたりが水しぶきで白っぽくなります。中小の河川は氾濫し、水害発生の可能性が高まります。

80mm以上
猛烈な雨



息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じます。雨による大規模な災害が発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要です。